

親亡き後の障がい者の支援体制と オーガニック給食について



丸岡 弘満 議員
(自由民主党・かさい市
民の会・無所属の会)



問 令和元年12月議会で、親の思いを代弁して「8050問題」「親亡き後の障がい者の支援体制」について問題提起をした。令和5年度予算の独立型短期入所施設整備や緊急短期入所施設確保、相談支援事業所整備の3つの補助事業に感謝するが、事業の効果は。

答 3事業に加えて専門的人材の確保、養成を進めることで、地域生活支援拠点の整備が一定完成すると考えています。拠点運営の中で、障がいのある方や御家族の生活のしづらさや不安が少しでも解消できればと考えます。

問 令和2年12月議会で指摘したが、市は地域生活支援拠点について、第4期障害福祉計画で「平成29年度に1か所の整備を目指す」として、達成できなかった。第5期の「令和2年度までに」という目標も達成できなかった。そして、第6期では、数値目標を定めず「令和5年度までに周辺を含む拠点整備を行う」という表現にとどまった。

仮に整備できなかった場合どうするのか。新たな対策を講じて確実に整備を進めていく必要があると考えるが、担当課の覚悟を問う。

答 事業者参入が見込めないことのないよう、慎重かつ着実に事業実施を進めていくとともに、万が一、実施がかなわなかった場合においても、必要な事業であることは強く認識しており、早

急に事業が実施できるよう粘り強く調整を行っていきます。

問 学校給食において有機・オーガニック食材を使用する考えはないのか。12月8日の有機農業の日は、オーガニックにこだわった給食を提供して欲しい。

答 有機野菜の導入については問題も多く、現実的には給食への導入は難しいと考えます。しかし、安全安心な食材に対する注目は高まっており、学校給食の質の向上を目指す方向性として、大いに関心を寄せています。

■その他の質問項目

- ・未来に希望がもてる加西市農業の再生と活性化について
 - みどりの食料システム戦略について
 - 農業支援策について

コミュニティについて



下江 一将 議員
(21政会・加西ともて育つ会)



問 現在、女性活躍に関して、どのような取組やコミュニティがあるか。また、多様なコミュニティが形成されているか。

答 令和3年度から令和4年度にかけて実施した女性リーダー養成講座の参加者の多くは、グループを立ち上げたり、また様々なグループに属しており、活動は多岐にわたります。情報発信としては、各グループでSNSを活用している場合や、グループ内にとどまっている場合がほとんどではないかと考えています。そのた

め、現時点で活動の全体像を把握することはできていません。

問 ビジネスコンテスト等に参加して加西市で起業しようとしている方、また起業した方はその後、どこに相談に行けばいいか悩んでいると聞く。市内での起業家が増えているため、次のステップとして、それぞれの考えや悩みを共有できる場やコミュニティをつくることはできないか。

答 昨年度実施したサステナブルビジネスグランプリにおける起業スクールやグランプリを通じて、参加者同士のつながりが形成されていますが、具体的な内容は把握していません。今後もビジネスグランプリを継続しますので、アスものテレワークセンターなどを交流の場にできないか検討します。

問 現在、どのような団体やコミュニティが市内で活動しているのか分かりにくい。そのため関心のある活動があっても参加につながらない。市のホームページに活動内容や問合せ先を掲載するなど、見つけやすくする工夫により団体やコミュニティの見える化をお願いしたい。

答 現時点では団体やコミュニティのPRを一元的に行っていませんが、交流人口の増加も含めて有効な方法になると考えますので、検討していきます。

意見 働き方改革により、仕事を複数持つ方が増えている。アスもの利用率アップや空き家、空き店舗を活用した事業展開を見込んで、加西市が副業、兼業を検討する方を支援する方向性を示していただきたい。